はじめてのGitとGitHub



Gitのよく使うコマンド集

ローカルリポジトリの新規作成

リポジトリとは、ファイルやディレクトリの状態、 変更履歴を記録する場所。

"git init" コマンドでリポジトリを新規作成する。





ステージングエリアへの変更追加

複数ファイルを変更したときに、コミットするファイルを選択するためにあるのがステージングエリア。



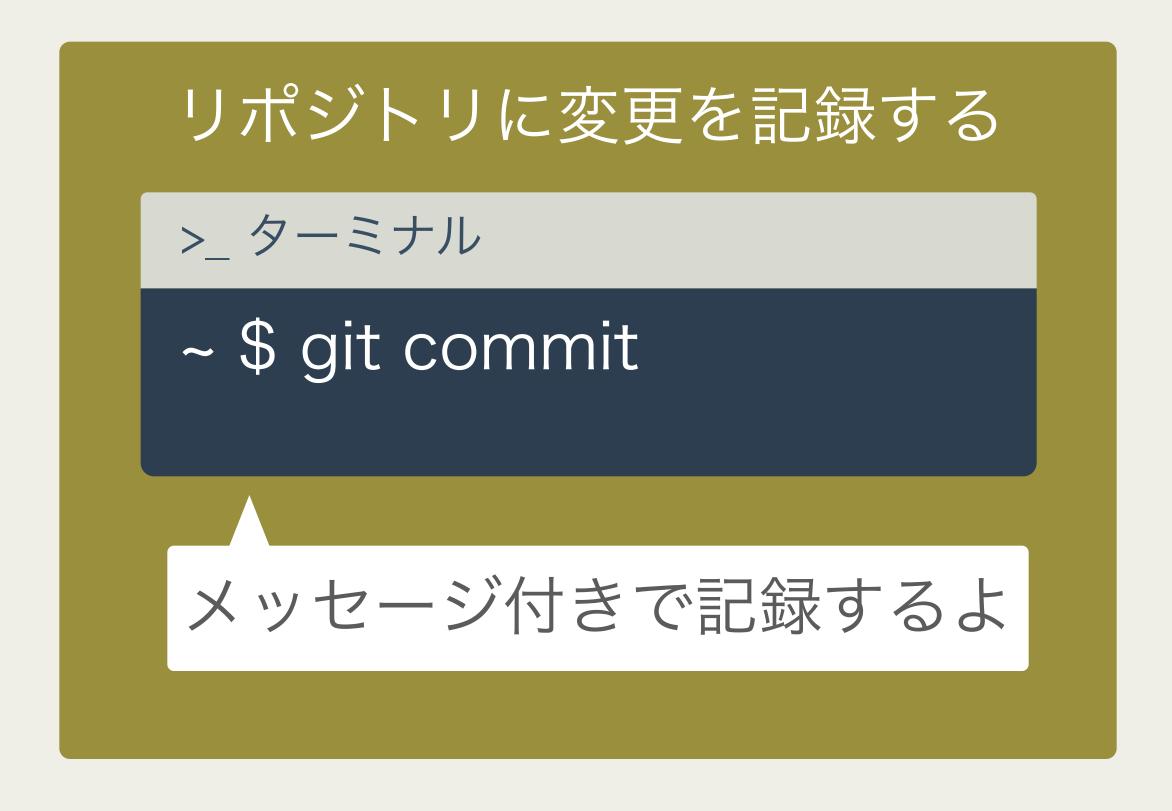
- > ターミナル
- ~ \$ git add [ファイル名]
- ~ \$ git add.

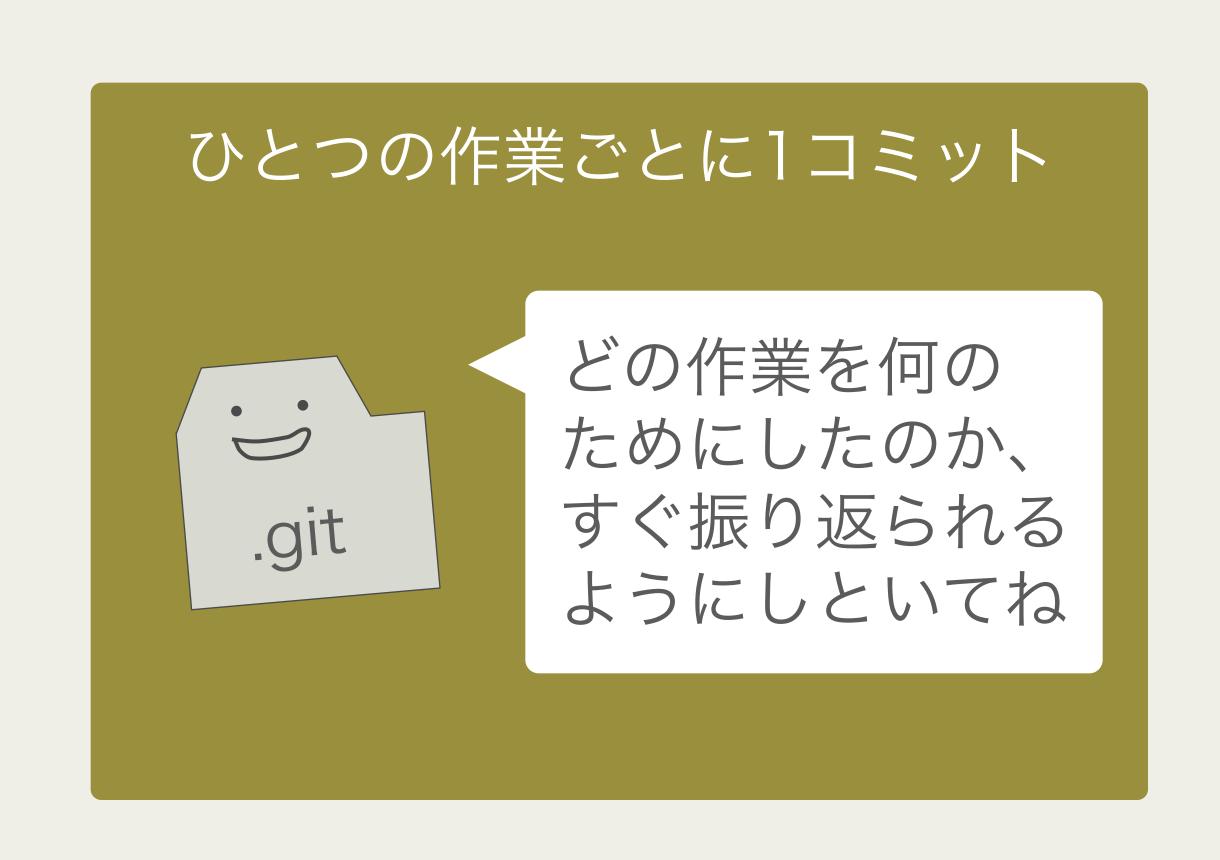
追加するということだよ



変更の記録

変更にメッセージを付けてリポジトリに記録するのが コミット。コミットすることで変更がリポジトリ内に 時系列で記録される。





現在の状況の確認

git statusコマンドでGitリポジトリの状況を表示する。





変更履歴を確認しよう

git logコマンドでリポジトリにコミットされた ログを確認する。

変更履歴の確認

>_ ターミナル

~ \$ git log
commit 3b4f3aafe
Author: kiyodori <~@~>
Date: Fri Feb 10
first commit

色々なオプション

>_ ターミナル

- # 一行で表示する

 # Cit log -- oneling
- ~ \$ git log --oneline
- # ファイルの差分を表示する
- ~ \$ git log -p index.html

変更差分の確認

git diffコマンドで、ファイルの変更差分を表示する。



```
add, commitする前に確認しよう
 > ターミナル
 #ステージとの差分
 ~ $ git diff
 # ステージとコミットの差分
 ~ $ git diff HEAD
```

リモートリポジトリの登録

git remote addコマンドで、リモートリポジトリを登録できる。

リモートリポジトリの登録

>_ ターミナル

~ \$ git remote add orign https://github.com/user/repo.git

今後はoriginという名前でGitHubリポジトリにアクセスできるよ

リモートリポジトリへ送信

git pushコマンドで、ローカルリポジトリの内容を リモートリポジトリへ送信する。

リモートリポジトリへ送信

> ターミナル

~ \$ git push origin master

登録したGitHubへ送れるよ

master以外のブランチへ送信

>_ ターミナル

~ \$ git push origin feature

featureブランチを送るよ